

市川市障害者計画 具体的な施策 重点事業(個票)

第1回 市川市社会福祉審議会 令和6年7月31日（水）	資料2-③-5
--------------------------------	---------

第4次いしかわハートフルプラン

第2部 市川市障害者計画 > 第2章 具体的な施策 > **第1節 子育て・教育の充実 ～のびのびと育つ～** > **第1項 子育て支援**

<重点事業>

事業名	保育園巡回相談事業		担当課	こども部 発達支援課		ページ	67
事業概要	民間の保育園を巡回し、障がい児に対しての適切な支援について職員に対して助言を行います。						
指標等	保育園巡回件数						
年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度		
目標	90回		90回		90回		
実績	74回（電話相談含む）中止16回		86回（電話相談含む）中止3回		89回（電話相談含む）中止1回		
評価(＊)	A		A		A		
評価の理由	「巡回資料」を活用し、非対面でも保育園に助言を行うことができた。評価の目安どおりAとした。		引き続きコロナの影響はあったが、前年度より、実施できた回数が増えた。評価の目安どおりAとした。		新型コロナウイルスの5類移行に伴い、対面でのカンファレンスを再開した。令和4年度より実施回数が増え、予定通り実施できたため評価の目安通りAとした。		
実績の概要	目標通り90回の実施を予定した。コロナの影響で訪問を中止した園もあったが、希望により電話相談を行った。		コロナ感染拡大防止のため、保育園にて行動観察を行った後、電話でカンファレンスを実施することで巡回職員の保育園滞在時間を減らした。		保育園にて行動観察を行った後、対面でカンファレンスを実施した。具体的な支援の方法を写真入りで紹介している資料も活用し、助言を行った。		
今後の課題と対応	障がい児に対しての適切な支援につながるよう継続して実施していく。		障がい児に対しての適切な支援、保育士の支援技術向上のため、継続して実施していく。		障がい児に対しての適切な支援、保育士の支援技術向上のため、継続して実施していく。		

＊評価の目安 … A＝十分達成できた(75%以上)、 B＝概ね達成できた(50%以上75%未満)、 C＝やや不十分だった(25%以上50%未満)、 D＝不十分だった(25%未満)。

第4次いちかわハートフルプラン

第2部 市川市障害者計画 > 第2章 具体的な施策 > 第1節 子育て・教育の充実 ～のびのびと育つ～ > 第2項 学校教育

<重点事業>

事業名	特別支援教育推進事業	担当課	学校教育部 指導課	ページ	70
事業概要	市川市特別支援教育推進計画（第3期）に則り、全ての幼稚園・学校において、特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒の市川スマイルプラン（個別の教育支援計画）を作成し、関係機関との連携を図りながら、一貫した支援を目指します。				
指標等	通常学級に在籍し通級指導教室に入級していない幼児・児童・生徒であって市川スマイルプランの作成が必要と認めるものの市川スマイルプラン作成率				
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度		
目標	85%	85%	85%		
実績	72.33%	54.40%	62.10%		
評価(＊)	A	B	B		
評価の理由	評価の目安どおりAとした。	多様な教育的ニーズに対し、学校が何らかの支援を行っているためBとした。	多様な教育的ニーズに対し、学校が何らかの支援を行っているためBとした。		
実績の概要	発達センターに通う就学前の保護者に向けて市川スマイルプランの資料を配付し、周知した。また、幼稚園、小・中学校の入園・入学説明会において市川スマイルプランの説明を実施したことで、保護者への周知が広がっている。	昨年度と比較すると、園・学校が把握している特別な教育的ニーズのある幼児・児童・生徒数が約700名増加したが、これは、学校側が考える「支援が必要な子」の基準が広がり、不登校や外国籍等の子も含まれたためであると考えられる。市川スマイルプランは保護者の希望により作成するものであり、作成は進んでいないが、スマイルプラン未作成ながらも学校側が「支援が必要な子」と判断して学校が支援資料を作成している数を加えると、77.4%となるため、学校が校内支援体制を整えて何らかの支援を実施している状況にある。今後は、特別な教育的ニーズの内容を具体的に把握するとともに、発達障がい等がなくとも市川スマイルプランを作成・活用するよう教職員に対し研修会を行ったり、保護者・園・学校に対して周知していく必要がある。	園・学校が把握している特別な教育的ニーズのある幼児・児童・生徒数が増加傾向にある。これは、園・学校側が考える「支援が必要な子」の基準が広がり、不登校や外国籍等の子も含まれたためであると考えられる。さらに、教職員の特別支援教育への理解が深まっている。市川スマイルプランは保護者の希望により作成するものであり、作成は進んでいないが、スマイルプラン未作成ながらも学校側が「支援が必要な子」と判断して学校が支援資料を作成している数を加えると、77.1%となるため、学校が校内支援体制を整えて何らかの支援を実施している状況にある。今後は、特別な教育的ニーズの内容を具体的に把握するとともに、発達障がい等がなくとも市川スマイルプランを作成・活用するよう教職員に対し研修会を行ったり、保護者・園・学校に対して周知していく必要がある。		
今後の課題と対応	幼稚園入園説明会における市川スマイルプランの説明は令和元年度から実施し始めたばかりである。今後も入園説明会を通して、周知をしていく。また、学校教職員に対しては、研修会等を通して、市川スマイルプランと個別の指導計画の作成と活用について周知していく。	市川スマイルプランを作成することで支援が引き継がれることを、入園・入学説明会等で保護者に周知していく。また、令和4年度から市川スマイルプランの様式に「個別の指導計画」を追加し、毎年保護者と支援内容や次年度への引継ぎ内容を確認することとしており、今後も学校・保護者が連携して支援を進めるようにした。学校教職員に対しては、研修会等を通して、市川スマイルプランと個別の指導計画の作成と活用について周知していく。	市川スマイルプランを作成することで支援が引き継がれることを、入園・入学説明会等で保護者に周知していく。また、市川スマイルプランの「個別の指導計画」を作成し、毎年保護者と支援内容や次年度への引継ぎ内容を確認することとしている。今後も学校・保護者が連携して支援を進めるようにしていく。学校教職員に対しては、研修会等を通して、市川スマイルプランと個別の指導計画の作成と活用について周知していく。		

＊評価の目安 … A＝十分達成できた(75%以上)、 B＝概ね達成できた(50%以上75%未満)、 C＝やや不十分だった(25%以上50%未満)、 D＝不十分だった(25%未満)。

第4次いしかわハートフルプラン

第2部 市川市障害者計画 > 第2章 具体的な施策 > **第2節 社会参加・就労の促進 ～地域で活動する～** > **第1項 生涯学習**

<重点事業>

事業名	市主催講座・講演等における合理的配慮の推進		担当課	福祉部 障がい者支援課	ページ	72
事業概要	市が主催する講座や講演会等において、手話通訳者・要約筆記者の派遣や車いす席の配置等の合理的配慮を図ります。					
指標等	手話通訳者・要約筆記者の全庁派遣件数					
年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
目標	27件		28件		29件	
実績	3件		5件		12件	
評価(＊)	B		B		B	
評価の理由	例年開催していた講演会等のほとんどがコロナ禍の影響で中止となったが、開催したものについては手話通訳者の派遣を行ったことからBとした。		例年開催していた講演会等がコロナ禍の影響で中止となったが、徐々に講演会、イベントが昨年度よりは増えた。開催したものについては手話通訳者の派遣を行ったことからBとした。		コロナ禍の影響が終わり、徐々にイベントが増えているため、昨年度に比べ件数が倍以上になっている。今後も件数は増えるものと考えられることからBとした。	
実績の概要	「おとなの食育講習会」、「いしかわ障がい者就職面接会」、配慮を要する障がい者へのワクチン接種会場への派遣。		「市民祭り」、「ヒューマンフェスタ市川」、「市川市民マラソン」、「二十歳の集い」、「火災予防絵画展表彰式」への派遣。 (「おとなの食育講習会」(年2回)、「障がい者就職面接会」については、ろう者の申込みなくキャンセル。)		「市民祭り」、「ヒューマンフェスタ市川」、「市川市民マラソン」、「二十歳の集い」、「火災予防絵画展表彰式」「おとなの食育講習会」(年2回)、「障がい者就職面接会」のほか、教育関係、手話の講習などにも派遣をした。	
今後の課題と対応	講演会等を所管する各課の予算にて手話通訳者等の派遣等を進めている。今後も必要に応じて派遣等を行っていく。		講演会等を所管する各課の予算にて手話通訳者等の派遣等を進めている。今後はコロナが収束し講演会等イベントが増える予想される。必要に応じて派遣等を行っていく。		講演会等を所管する各課の予算にて手話通訳者等の派遣等を進めている。講演会等イベントが増える予想される。必要に応じて派遣等を行っていく。	

＊評価の目安 … A＝十分達成できた(75%以上)、 B＝概ね達成できた(50%以上75%未満)、 C＝やや不十分だった(25%以上50%未満)、 D＝不十分だった(25%未満)。

第4次いしかわハートフルプラン

第2部 市川市障害者計画 > 第2章 具体的な施策 > **第2節 社会参加・就労の促進 ～地域で活動する～** > **第2項 スポーツ・レクリエーション・文化芸術活動**

<重点事業>

事業名	障がい者スポーツ事業		担当課	スポーツ部 スポーツ推進課	ページ	74
事業概要	障がいのある方にスポーツに親しむ機会を提供するとともに、健康・体力の保持と増進をはかります。					
指標等	障がい者軽スポーツ教室への参加人数					
年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
目標	100人		100人		100人	
実績	11人		28人		38人	
評価(＊)	C		C		C	
評価の理由	目標は全6回分の数値であることから、実施回数分の目標数値（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施は2回）である34人に対する評価としたもの。		評価の目安どおりCとした。		評価の目安どおりCとした。	
実績の概要	全6回の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施は2回としている。 11月12月にそれぞれ開催し、輪投げ、ボッチャ、風船バレーといった軽スポーツを実施した。		全6回開催。6・7・9・10・11・12月に実施。輪投げ、ボッチャ、風船バレー、卓球バレーといった軽スポーツを実施した。		全6回開催。6・7・9・10・11・12月に実施。輪投げ、ボッチャ、風船バレー、スカイクロスといった軽スポーツを実施した。	
今後の課題と対応	・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、参加者数が減少している。関係各課等と連携した周知活動と感染症対策を踏まえた安全・安心な環境整備を務めていく。 ・指導者不足の対応として、スポーツ推進委員への講習会の情報提供等を行っていく。		（課題）・参加者数の減少 ・指導者の不足 ・安全性の観点から、受入可能人数が限られている。 （対応）・関係各課等と連携した周知活動。 ・他課との共催や、県の補助事業の活用を検討する。 ・スポーツ推進委員への講習会の情報提供を行う。		（課題） ・指導者の不足 ・安全性の観点から、受入可能人数が限られている。 （対応） ・他課との共催や、県の補助事業の活用を検討する。 ・スポーツ推進委員への講習会や情報提供を行う。	

＊評価の目安 … A＝十分達成できた(75%以上)、 B＝概ね達成できた(50%以上75%未満)、 C＝やや不十分だった(25%以上50%未満)、 D＝不十分だった(25%未満)。

第4次いしかわハートフルプラン

第2部 市川市障害者計画 > 第2章 具体的な施策 > **第2節 社会参加・就労の促進 ～地域で活動する～** > **第3項 就労支援・雇用促進**

<重点事業>

事業名	就労支援に関わる研修		担当課	福祉部 障がい者支援課	ページ	76
事業概要	市川市自立支援協議会就労支援部会を中心に就労支援にかかわる課題を抽出し、課題に沿った研修を実施することにより、就労支援の担い手の育成を図ります。					
指標等	開催回数					
年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
目標	実施		実施		実施	
実績	未実施		実施		実施	
評価(＊)	－		A		A	
評価の理由	コロナ禍の影響で開催を見送った。		就労支援関係者のアセスメント能力の向上をねらいとして、相談支援の講義とグループワークを2日間にわたって実施。		就労支援部会下の就労支援担当者会議および福祉的就労担当者会議において、困難ケースの支援について検討する機会を持った。	
実績の概要	－		研修テーマ「いま必要とされるアセスメントについて」 参加者は1日目61名、2日目44名。アンケートでは5段階評価で平均4.45の評価であった。		就労支援担当者会議 (就労移行支援・就労継続支援A型) 年3回実施 福祉的就労担当者会議 (就労継続支援B型) 年6回実施	
今後の課題と対応	就労支援部会にて課題を抽出し、検討は行っている。今後の状況を見ながら、オンライン開催も含め、質の向上に向けた取組を行っていく。		就労支援の担い手の確保と質の向上の取組を今後も継続して行っていく。		就労支援の担い手の確保と質の向上の取組を今後も継続して行っていく。	

＊評価の目安 … A＝十分達成できた(75%以上)、 B＝概ね達成できた(50%以上75%未満)、 C＝やや不十分だった(25%以上50%未満)、 D＝不十分だった(25%未満)。

第4次いしかわハートフルプラン

第2部 市川市障害者計画 > 第2章 具体的な施策 > **第2節 社会参加・就労の促進 ～地域で活動する～** > **第3項 就労支援・雇用促進**

<重点事業>

事業名	優先調達推進事業		担当課	福祉部 障がい者支援課	ページ	77
事業概要	障害者優先調達推進法に基づき、市における障害者就労施設等からの物品等の調達に関する方針を策定し、優先的に物品や役務の調達を図ります。					
指標等	調達件数					
年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
目標	16件		16件		16件	
実績	29件		25件		20件	
評価(＊)	A		A		A	
評価の理由	評価の目安どおりAとした。		評価の目安どおりAとした。		評価の目安どおりAとした。	
実績の概要	役務が17件、物品12件の調達となった。役務についてはその大半が公園清掃となっている。		役務が15件、物品10件の調達となった。役務についてはその大半が公園清掃となっている。		役務が11件、物品9件の調達となった。	
今後の課題と対応	目標を上回る調達件数となった。引き続き優先的な物品や役務の調達を行っていく。		昨年より件数、金額ともに下回ったが、目標を上回る調達件数となった。引き続き優先的な物品や役務の調達を行っていく。		昨年より件数、金額ともに下回ったが、目標を上回る調達件数となった。令和6年度は、90周年記念事業などで新規の調達を見込んでいる。	

＊評価の目安 … A＝十分達成できた(75%以上)、 B＝概ね達成できた(50%以上75%未満)、 C＝やや不十分だった(25%以上50%未満)、 D＝不十分だった(25%未満)。

第4次いしかわハートフルプラン

第2部 市川市障害者計画 > 第2章 具体的な施策 > **第3節 生活支援の充実 ～地域で暮らす～** > **第1項 障がい者やその家族の高齢化への対応（重点施策）**

<重点事業>

事業名	地域生活支援拠点等整備事業		担当課	福祉部 障がい者支援課	ページ	79
事業概要	障がい者等の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据え、居住支援のための機能を地域の実情に応じた創意工夫により整備し、障がい者等の生活を地域全体で支えるサービス体制を構築していきます。					
指標等	緊急時対応等登録者数					
年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
目標	80人		110人		140人	
実績	61人		144人		213人	
評価(＊)	A		A		A	
評価の理由	評価の目安どおりAとした。		評価の目安どおりAとした。		評価の目安どおりAとした。	
実績の概要	R2年11月より事業を実施。地域生活支援拠点等コーディネーターを配置した緊急時等の施設利用の支援を中心に事業を行っている。周知については、広報、市公式ウェブサイトでの啓発、市内事業所への周知を行っている。		R2年11月より事業を実施。地域生活支援拠点等コーディネーターを配置した緊急時等の施設利用の支援を中心に事業を行っている。		今年度は精神障害に対応した短期入所施設が市内に開設された。また、医療的ケア者の緊急時対応のシミュレーションと短期入所の体験するイベントが1回実施された。知的障害の体験入所イベントが3回実施された。	
今後の課題と対応	相談、緊急時の対応のほか、体験の機会・場の整備に向けて検討中。また、受入施設の充足に向け、引き続き事業者への補助を行っていく。		相談、緊急時の対応のほか、体験の機会・場の整備に向けて検討中。また、受入施設の充足に向け、引き続き事業者への補助を行っていく。		相談、緊急時の対応のほか、体験の機会・場の整備に向けて検討中。また、受入施設の充足に向け、引き続き事業者への補助を行っていく。	

＊評価の目安 … A＝十分達成できた(75%以上)、 B＝概ね達成できた(50%以上75%未満)、 C＝やや不十分だった(25%以上50%未満)、 D＝不十分だった(25%未満)。

第4次いちかわハートフルプラン

第2部 市川市障害者計画 > 第2章 具体的な施策 > **第3節 生活支援の充実 ～地域で暮らす～** > **第2項 地域における生活の支援（重点施策）**

<重点事業>

事業名	障害者グループホーム等入居者家賃助成		担当課	福祉部 障がい者支援課	ページ	82
事業概要	障がい者の福祉の増進に資するため、グループホーム等に入居する障がい者に対して、家賃負担の一部を助成します。					
指標等	受給者数					
年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
目標	197人		200人		203人	
実績	259人		258人		282人	
評価(＊)	A		A		A	
評価の理由	評価の目安どおりAとした。		評価の目安どおりAとした。		評価の目安どおりAとした。	
実績の概要	R1年度191人、R2年度225人、R3年度259人と増加を続けている。		R1年度191人、R2年度225人、R3年度259人、R4年度258人。		R1年度191人、R2年度225人、R3年度259人、R4年度258人、R5年度282人。	
今後の課題と対応	障がい者の地域における生活の一つの選択肢として、グループホームは今後も重要であるため、家賃負担の軽減施策を今後も継続していく。		障がい者の地域における生活の一つの選択肢として、グループホームは今後も重要であるため、家賃負担の軽減施策を今後も継続していく。		障がい者の地域における生活の一つの選択肢として、グループホームは今後も重要であるため、家賃負担の軽減施策を今後も継続していく。	

＊評価の目安 … A＝十分達成できた(75%以上)、 B＝概ね達成できた(50%以上75%未満)、 C＝やや不十分だった(25%以上50%未満)、 D＝不十分だった(25%未満)。

第4次いちかわハートフルプラン

第2部 市川市障害者計画 > 第2章 具体的な施策 > 第3節 生活支援の充実 ～地域で暮らす～ > 第3項 コミュニケーション支援

<重点事業>

事業名	失語症会話パートナー派遣事業		担当課	福祉部 障がい者支援課	ページ	83
事業概要	失語症会話ボランティア養成講座を修了した失語症会話パートナーと失語症のある方々が公共施設に集まり、コミュニケーションを補いながら社会参加を促進します。また、失語症会話パートナーを高齢者施設等に派遣し、会話の場を提供します。					
指標等	延べ派遣人数					
年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
目標	170人		170人		170人	
実績	67人		123人		127人	
評価(＊)	C		B		B	
評価の理由	コロナ禍の影響もあって参加が控えられ気味。公共施設（サロン）への派遣が予定回数21回に対し12回派遣。目安どおりCとした。		公共施設（サロン）への派遣を予定通りの21回派遣。目安どおりBとした。		公共施設（サロン）への派遣のほか、千葉県言語聴覚士協会主催の「サロン」へ会話パートナーを派遣した。また個人派遣に向けた要領を作成した。	
実績の概要	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、介護老人保健施設からの派遣依頼がなかった。公共施設で実施しているサロンへの派遣はまん延防止対策により中止となる回もあったが12回開催。また失語症への理解、会話パートナー事業の啓発、周知を目的に高齢者サポートセンターを対象としたオンライン講座を実施。		公共施設で実施しているサロンへの派遣は年間21回開催。会話パートナーの現任者研修及び失語症への理解、会話パートナー事業の啓発、周知を目的に市民を対象とした講座を実施した。		公共施設で実施している失語症者と会話パートナーの会話を楽しむ場としてのサロンの開催、周知を目的としたケアマネージャー向け講座を実施した。また千葉県聴覚士協会主催の失語者を対象とした「行徳サロン」に会話パートナーの派遣を2回行った。	
今後の課題と対応	県主催支援者講座修了者6名が新規登録となり増加している。今後もこの事業について失語症者や支援者に周知していく。		千葉県言語聴覚士協会と連携し、外部派遣を含め当事業の拡大を図る。今後もこの事業について失語症者や支援者に周知していく。		千葉県言語聴覚士協会と連携し、外部派遣を行うにあたっての派遣範囲や申請方法など課題整理が必要である。今後もこの事業について失語症者や支援者に周知していく。	

＊評価の目安 … A＝十分達成できた(75%以上)、 B＝概ね達成できた(50%以上75%未満)、 C＝やや不十分だった(25%以上50%未満)、 D＝不十分だった(25%未満)。

第4次いしかわハートフルプラン

第2部 市川市障害者計画 > 第2章 具体的な施策 > **第4節 相談・権利擁護体制の確立 ～自分で決める～（重点施策）** > **第1項 相談**

<重点事業>

事業名	相談支援に関する研修		担当課	福祉部 障がい者支援課	ページ	86
事業概要	相談支援に従事する方を対象とした研修を実施すること等により、計画相談支援等の質の向上を図ります。					
指標等	研修等の実施					
年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
目標	実施		実施		実施	
実績	実施		実施		実施	
評価(＊)	A		A		A	
評価の理由	コロナ禍の中でも工夫を凝らして研修を実施。参加者からも好評であったためAとした。		対面で実施。参加者からも好評であったためAとした。		動画配信によるオンデマンド形式で実施。参加者からも好評であったためAとした。	
実績の概要	令和4年3月18日にオンラインで「令和3年度市川市障がい児・者相談支援ガイドライン研修」を実施。参加者35名。アンケートでは全て「大変良かった」か「良かった」だった。		令和5年3月14日、17日に「いま必要とされるアセスメントについて」と題して相談系・就労系事業所を対象として実施。参加者は1日目61名、2日目44名。アンケートでは5段階評価で平均4.45の評価であった。		令和6年2月に、指定特定相談支援事業者向けの集団指導を実施。法改正、報酬改定に伴う内容などについて説明を行った。	
今後の課題と対応	引き続き、ニーズに見合った研修を企画していく。		引き続き、ニーズに見合った研修を企画していく。		引き続き、ニーズに見合った研修を企画していく。	

＊評価の目安 … A＝十分達成できた(75%以上)、 B＝概ね達成できた(50%以上75%未満)、 C＝やや不十分だった(25%以上50%未満)、 D＝不十分だった(25%未満)。

第4次いかわハートフルプラン

第2部 市川市障害者計画 > 第2章 具体的な施策 > **第4節 相談・権利擁護体制の確立 ～自分で決める～（重点施策）** > **第2項 権利擁護**

<重点事業>

事業名	成年後見制度利用支援事業			担当課	福祉部 地域包括支援課、障がい者支援課	ページ	88
事業概要	知的障がい、精神障がい、認知症等の理由で判断能力が十分でない人が成年後見制度を活用するための啓発活動や相談等の業務を市川市社会福祉協議会に委託して行います。						
指標等	相談実件数（障がい分）／啓発回数						
年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度		
目標	40件／16回		40件／16回		40件／16回		
実績	54件／16回		56件／19回		43件/27回		
評価(＊)	A		A		A		
評価の理由	評価の目安どおりAとした。		評価の目安どおりAとした。		評価の目安どおりAとした。		
実績の概要	・パンフレットの配布や機関紙への掲載等による理解促進や出前講座の開催による周知活動を実施。 ・新規相談222件（高齢者159件、知的24件、精神30件、その他9件）、継続相談322件、延べ544件 ・家庭裁判所への申立ての件数は26件 ・「後見制度利用相談会」を毎月1回開催し、合計11件（高齢者を含む）の相談に対応した。		・パンフレットの配布や機関紙への掲載等による理解促進や出前講座の開催による周知活動を実施。 ・新規相談237件（高齢者171件、知的20件、精神36件、その他10件）、継続相談374件、延べ611件 ・家庭裁判所への申立ての件数は13件 ・「後見制度利用相談会」を毎月1回開催し、合計14件（高齢者を含む）の相談に対応した。		・「市川市成年後見制度利用促進基本計画」を策定し、更なる制度の利用促進に向けた周知・啓発活動を実施。 ・新規相談207件（高齢者151件、知的15件、精神28件、その他13件）、継続相談374件、延べ581件 ・「後見制度利用相談会」を毎月1回開催し、合計11件（高齢者を含む）の相談に応じた。		
今後の課題と対応	今後も当事者及び当事者家族の成年後見制度への理解、利用促進を図るとともに、相談及び申立て支援の充実を図るための体制整備を行っていく。		今後も当事者及び当事者家族の成年後見制度への理解、利用促進を図るとともに、相談及び申立て支援の充実を図るための体制整備を行っていく。		今後も当事者及び当事者家族の成年後見制度への理解、利用促進を図るとともに、相談及び申立て支援の充実を図るための体制整備を行っていく。		

＊評価の目安 … A＝十分達成できた(75%以上)、 B＝概ね達成できた(50%以上75%未満)、 C＝やや不十分だった(25%以上50%未満)、 D＝不十分だった(25%未満)。

第4次いしかわハートフルプラン

第2部 市川市障害者計画 > 第2章 具体的な施策 > **第5節 保健・医療・リハビリテーションの充実 ～健やかに暮らす～** > **第1項 健康づくり・予防**

<重点事業>

事業名	ゲートキーパー養成研修		担当課	保健部 保健センター健康支援課	ページ	90
事業概要	専門職だけでなく民生委員なども含めた市民を対象に、悩んでいる人に関わるあらゆる分野で、自殺につながるサインや状況を早期に発見し、適切な対応を図ることができる人材を育成するための研修会等を実施します。					
指標等	研修の開催回数					
年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
目標	3回		3回		3回	
実績	6回		4回		4回	
評価(＊)	A		A		A	
評価の理由	庁内、市民向けに動画配信による研修を実施。評価の目安どおりAとした。		庁内、市民向けともに対面での集合型による研修を実施。評価の目安どおりAとした。		庁内、市民向けともに対面での集合型による研修を実施。評価の目安どおりAとした。	
実績の概要	庁内対象：3回 市民向け：3回		庁内対象：3回 市民向け：1回		庁内対象：3回 市民向け：1回	
今後の課題と対応	新型コロナウイルス感染拡大の影響による経済状況の悪化や雇用問題などにより、今後は男性だけでなく、女性の自殺者数の増加が懸念される。若年層の自殺の増加も懸念されることから多様性社会推進課や教育センターなど関係部署と連携を図り、実施する必要がある。		R4年10月に閣議決定された自殺総合対策大綱において「子ども・若者の自殺対策の更なる推進」「女性に対する支援の強化」などを重点的に推進することとされている。小中高生自身やその家族、問題を抱えた女性などへの支援につながるようなゲートキーパー養成研修の企画・実施についても検討していきたい。		R5年度は若年層への自殺対策の一環として、思春期の子を持つ保護者や関係者向けの講座を実施した。重要な取り組みであるため、内容、周知方法について検討し、より多くの方が参加できるよう実施していく必要がある。	

＊評価の目安 … A＝十分達成できた(75%以上)、 B＝概ね達成できた(50%以上75%未満)、 C＝やや不十分だった(25%以上50%未満)、 D＝不十分だった(25%未満)。

第4次いしかわハートフルプラン

第2部 市川市障害者計画 > 第2章 具体的な施策 > **第5節 保健・医療・リハビリテーションの充実 ～健やかに暮らす～** > **第2項 医療・リハビリテーション**

<重点事業>

事業名	身体障害者地域リハビリテーション体制整備事業			担当課	福祉部 障がい者支援課	ページ	92
事業概要	障がいのある方の身体機能及び生活機能を維持するために、理学療法士・作業療法士が、地域の通所施設等への巡回などにより相談・助言を行い、地域におけるリハビリテーション体制の整備を進めます。また、本市における地域リハビリテーションのネットワークづくりを進めるために、地域生活支援に関わる関係者とリハビリテーション情報交換会を開催し、地域におけるニーズや課題について検討します。						
指標等	個別支援件数						
年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度		
目標	550件		560件		570件		
実績	403件		514件		541件		
評価(＊)	B		A		A		
評価の理由	評価の目安どおりBとした。コロナ禍の影響により約4か月間事業所巡回を自粛した影響で実績が少なくなった。		評価の目安どおりAとした。コロナ禍の影響により約2か月間事業所巡回を自粛した影響で実績が少なくなった。		評価の目安どおりAとした。		
実績の概要	理学療法士・作業療法士が市内通所施設を巡回し、通所者への「個別継続支援」をした延べ件数（403件）。巡回時は施設支援員や市外通所者への支援「事業所支援」（111件）も行っている。		理学療法士・作業療法士が市内通所施設を巡回し、通所者への「個別継続支援」をした延べ件数（514件）。巡回時は施設支援員や市外通所者への支援「事業所支援」（67件）も行っている。		理学療法士・作業療法士が市内通所施設を巡回し、通所者への「個別継続支援」をした延べ件数（541件）。巡回時は施設支援員や市外通所者への支援「事業所支援」（75件）も行っている。		
今後の課題と対応	複数施設を併用している利用者において、リハビリテーション支援を施設間で共有できるようなネットワークづくりを行う。また、地域リハビリテーションネットワークづくりのための情報交換会も今後実施していく。		複数施設を併用している利用者において、リハビリテーション支援を施設間で共有できるようなネットワークづくりを行う。また、地域リハビリテーションネットワークづくりのための情報交換会も今後実施していく。		地域リハビリテーションネットワークづくりのための情報交換会も今後実施していく。		

＊評価の目安 … A＝十分達成できた(75%以上)、 B＝概ね達成できた(50%以上75%未満)、 C＝やや不十分だった(25%以上50%未満)、 D＝不十分だった(25%未満)。

第4次いしかわハートフルプラン

第2部 市川市障害者計画 > 第2章 具体的な施策 > **第6節 誰にとっても暮らしやすいまちづくりの推進 ～安心して暮らす～** > **第1項 災害や感染症の対策（重点施策）**

<重点事業>

事業名	避難行動要支援者対策事業			担当課	福祉部 地域支えあい課 地域共生課	ページ	94
事業概要	災害の発生、又はそのおそれがある場合に自ら避難することが困難な方の円滑かつ迅速な避難の確保を図るため、特に支援を要する「避難行動要支援者」を把握し、避難の支援等を実施するための名簿を作成します。 また、「地域全体で助け合う『共助意識』」、「支援を受けるため自ら地域とつながりを持つ『自助意識』」の向上を推進し、「避難行動要支援者名簿」を活用したいと考える避難支援等関係者へ提供する体制を整備します。さらに、平時における地域のつながりを促進します。						
指標等	名簿提供自治（町）会数						
年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度		
目標	前年度 + 10		前年度 + 10		前年度 + 10		
実績	144自治(町)会		142自治(町)会		142自治(町)会		
評価(＊)	B		B		B		
評価の理由	前年度から増減がなかったため、Bとした。		前年度から2減にとどまったため、Bとした。		前年度から増減がなかったため、Bとした。		
実績の概要	名簿提供自治（町）会数が1増えたが、名簿提供を廃止した自治(町)会も1あったことからプラスマイナスゼロとなった。		名簿提供を廃止した自治(町)会は2あったことからマイナス2となった。		名簿提供自治（町）会数に増減はなかった。		
今後の課題と対応	名簿未提供自治(町)会に対し制度の周知徹底を図る。		名簿未提供自治(町)会に対し制度の周知徹底を図るため、避難行動要支援者支援活動の手引きを改定し、全ての自治(町)会へ周知を図った。		名簿未提供自治(町)会に対し制度の周知徹底を図るため、避難行動要支援者支援活動の手引の周知を図った。		

＊評価の目安 … A＝十分達成できた(75%以上)、 B＝概ね達成できた(50%以上75%未満)、 C＝やや不十分だった(25%以上50%未満)、 D＝不十分だった(25%未満)。

第4次いしかわハートフルプラン

第2部 市川市障害者計画 > 第2章 具体的な施策 > **第6節 誰にとっても暮らしやすいまちづくりの推進 ～安心して暮らす～** > **第2項 福祉のまちづくり**

<重点事業>

事業名	人にやさしい道づくり重点地区整備事業		担当課	道路交通部 道路建設課	ページ	97
事業概要	「市川市交通バリアフリー基本構想」に基づき、主要駅周辺の半径500m以内を重点整備地区とし、歩道の段差解消、平坦性の確保等のバリアフリー化を進めます。					
指標等	歩道のバリアフリー化箇所数					
年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
目標	2箇所		2箇所		2箇所	
実績	0箇所		2箇所		2箇所	
評価(＊)	C		B		A	
評価の理由	工事を繰り越したため実績は0箇所だが、工事1箇所に着手して前払金（40％）を支出し、工事も進捗していた事からCとした。		2箇所です工事が完成したが、1箇所は前年度からの繰越工事であったことを踏まえ、Bとした。		目標どおり2箇所の工事を実施したため、Aとした。	
実績の概要	・歩道のバリアフリー化 1箇所（市道0219号、L＝690m）の工事の前払い金		・歩道のバリアフリー化 2 箇所 市道0219号 新田2丁目～平田3丁目 L＝690m 新田4丁目外 L＝351m		・歩道のバリアフリー化 2 箇所 市道0203号 行徳駅前1丁目5番～17番地先 L＝216m 市道0119号 市川南2丁目2番地先 L＝15m	
今後の課題と対応	整備した箇所も老朽化が進んでいることから、今後の整備箇所は、整備済の箇所も含めて選定することが必要と思われる。		整備した箇所も老朽化が進んでいることから、今後の整備箇所は、整備済の箇所も含めて選定することが必要と思われる。		整備した箇所も老朽化が進んでいることから、今後の整備箇所は、整備済の箇所も含めて選定することが必要と思われる。	

＊評価の目安 … A＝十分達成できた(75%以上)、 B＝概ね達成できた(50%以上75%未満)、 C＝やや不十分だった(25%以上50%未満)、 D＝不十分だった(25%未満)。

第4次いしかわハートフルプラン

第2部 市川市障害者計画 > 第2章 具体的な施策 > **第6節 誰にとっても暮らしやすいまちづくりの推進 ～安心して暮らす～** > **第3項 居住環境の整備**

<重点事業>

事業名	グループホームの開設や運営に対する支援		担当課	福祉部 障がい者支援課	ページ	99
事業概要	障害者グループホームの新規開設や運営をする事業者に対し、その経費について補助を行います。					
指標等	開設時の補助の実施／運営費の補助の件数（事業所数）／市内グループホームの定員数					
年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
目標	実施／50件／230人		実施／50件／240人		実施／50件／250人	
実績	実施／57件／307人		実施／59件／410人		実施／51件／467人	
評価(＊)	A		A		A	
評価の理由	事業所数は増加しており、申請に基づいて補助も行っているため、Aとした。		事業所数は増加しており、申請に基づいて補助も行っているため、Aとした。		定員数は増加し、かつ事業所数が目標を越えており、申請に基づいて補助も行っているため、Aとした。	
実績の概要	開設時補助：R2年度6件、R3年度5件 運営費補助：R2年度48事業所、R3年度57事業所 定員数：R2年度末23事業所283人、 R3年度末26事業所307人		開設時補助：5件 運営費補助：59事業所 定員数：33事業所410人		開設時補助：2件 運営費補助：51事業所 定員数：39事業所467人	
今後の課題と対応	引き続きニーズに応じた必要な補助を実施する。		引き続きニーズに応じた必要な補助を実施する。		引き続きニーズに応じた必要な補助を実施する。	

＊評価の目安 … A＝十分達成できた(75%以上)、 B＝概ね達成できた(50%以上75%未満)、 C＝やや不十分だった(25%以上50%未満)、 D＝不十分だった(25%未満)。

第4次いしかわハートフルプラン

第2部 市川市障害者計画 > 第2章 具体的な施策 > **第7節 地域の理解・支援の促進 ～地域で支え合う～** > **第1項 障がいに対する理解の促進、合理的配慮の提供（重点施策）**

<重点事業>

事業名	障がいに関する理解啓発事業		担当課	福祉部 障がい者支援課	ページ	101
事業概要	障害者基本法第9条に定める障害者週間の趣旨にふさわしい事業を実施し、障がいに関する理解促進を図ります。					
指標等	実施の有無					
年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
目標	実施		実施		実施	
実績	アクセス数：1642（令和3年12月） Web上にてWeb版「I♥あいフェスタ」を公開 ファンクションルーム来場者数：161人 第1庁舎ファンクションルームにて展示等を実施 （期間）12月13日～17日		アクセス数：1246（令和4年12月） Web上にてWeb版「I♥あいフェスタ」を公開 ファンクションルーム来場者数：263名 第1庁舎ファンクションルームにて展示等を実施 （期間）12月2日～9日		障害者週間イベント「I♥あいフェスタ」の開催 ① 福祉の店・ワークショップ （12月3日、ニッケコルトンプラザウエストコート） ② 展示・体験企画 （12月4日～8日第1庁舎ファンクションルーム） ③ Web企画（福祉の店・事業所マップ・動画公開）	
評価（＊）	A		A		A	
評価の理由	評価の目安どおりAとした。		評価の目安どおりAとした。		評価の目安どおりAとした。	
実績の概要	新型コロナウイルス感染防止のため、集合型イベント形式での開催を中止し、「Web版 I♥あいフェスタ」と称して特設Webページを公開した。また、第1庁舎ファンクションルームにて「I♥1 グランプリ」の作品展示やパラアスリートのインタビュー動画等の放映を行った。		新型コロナウイルス感染防止のため、集合型イベント形式での開催を中止し、「Web版 I♥あいフェスタ」と称して特設Webページを公開した。また、第1庁舎ファンクションルームにて「I♥1 グランプリ」の作品展示や「障がいを支えるテクノロジー」をテーマに意思伝達装置や義肢の体験・展示を行った。		① 市内14事業所 が出店 ② 来場者数280人 ③ 関連ページ 総アクセス数 1161件	
今後の課題と対応	新型コロナウイルス感染防止のため、集合型イベント形式での開催を中止しているが、開催を望む声も多くあり、開催方法について検討していく必要がある。		集合型イベント形式での開催を検討。		より多くの方が来場、参加できるイベントを検討	

＊評価の目安 … A＝十分達成できた(75%以上)、 B＝概ね達成できた(50%以上75%未満)、 C＝やや不十分だった(25%以上50%未満)、 D＝不十分だった(25%未満)。

第4次いちかわハートフルプラン

第2部 市川市障害者計画 > 第2章 具体的な施策 > **第7節 地域の理解・支援の促進 ～地域で支え合う～** > **第1項 障がいに対する理解の促進、合理的配慮の提供（重点施策）**

<重点事業>

事業名	福祉の店運営支援事業		担当課	福祉部 障がい者施設課	ページ	101
事業概要	障がい者の社会参加と工賃向上を目的に、障害者施設等の障がい者が製作する物品を販売する「福祉の店」の運営を支援します。					
指標等	出店回数					
年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
目標	293回		293回		293回	
実績	73回		241回		231回	
評価(＊)	C		A		A	
評価の理由	10月から市役所第一庁舎での販売を再開したが、他販売会は新型コロナウイルスの影響で中止。目安どおりCとした。		昨年度の10月から市役所第一庁舎での販売が続けているが、市川駅、他販売会は新型コロナウイルスの影響で中止。目標値は下回っているが、目安どおりAとした。		市役所第1庁舎での販売がキャンセル等で毎日出来なかったため回数が減少。イオン市川妙典店での販売は今年度はなし。市川駅、他販売会も引き続き中止になったため、目標値は下回っているが、目安どおりAとした。	
実績の概要	10月から市役所第一庁舎での販売を再開。また、「道の駅いちかわ」常設販売も実施。		市役所第一庁舎販売は昨年度から継続。令和4年9月からはイオン市川妙典店での販売を開始。令和4年11月からは大柏出張所での販売を再開した。		市役所第1庁舎販売、大柏出張所販売、道の駅常設は定着してきた。障害者週間に行われたコルトンプラザでは13団体が参加。計30万円の売上があった。	
今後の課題と対応	新型コロナウイルスの状況を見極めながら、市川駅販売等販売会を検討していく。		新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきたので、市川駅販売やふれあいセンターまつり等の参加を予定している。		市川駅販売が今後も中止になったため、代わりに障害者週間で実績があったコルトンプラザでの販売をサマーフェスティバルとして予定している。	

＊評価の目安 … A＝十分達成できた(75%以上)、 B＝概ね達成できた(50%以上75%未満)、 C＝やや不十分だった(25%以上50%未満)、 D＝不十分だった(25%未満)。

第4次いしかわハートフルプラン

第2部 市川市障害者計画 > 第2章 具体的な施策 > **第7節 地域の理解・支援の促進 ～地域で支え合う～** > **第2項 支援人材の確保と質の向上（重点施策）**

<重点事業>

事業名	相談支援に関する研修		担当課	福祉部 障がい者支援課	ページ	105
事業概要	相談支援に従事する方を対象とした研修の実施等により、計画相談支援等の人材の定着や質の向上を図ります。					
指標等	研修等の実施／指定特定相談支援事業所数・指定障害児相談支援事業所数					
年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
目標	実施／33・23		実施／33・23		実施／34・24	
実績	実施／34・23		実施／35・25		実施／35・25	
評価(＊)	A		A		A	
評価の理由	コロナ禍の中でも工夫を凝らして研修を実施。参加者からも好評であったためAとした。		研修は対面で実施。参加者からも好評であった。事業所数は微増傾向にある。		動画配信によるオンデマンド形式で実施。参加者からも好評であった。	
実績の概要	令和4年3月18日にオンラインで「令和3年度市川市障がい児・者相談支援ガイドライン研修」を実施。参加者35名。アンケートでは全て「大変良かった」か「良かった」だった。		令和5年3月14日、17日に「いま必要とされるアセスメントについて」と題して相談系・就労系事業所を対象として実施。参加者は1日目61名、2日目44名。アンケートでは5段階評価で平均4.45の評価であった。		令和6年2月に、指定特定相談支援事業者向けの集団指導を実施。法改正、報酬改定に伴う内容などについて説明を行った。	
今後の課題と対応	引き続き、ニーズに見合った研修を企画していく。		引き続き、ニーズに見合った研修を企画していく。		引き続き、ニーズに見合った研修を企画していく。	

＊評価の目安 … A＝十分達成できた(75%以上)、 B＝概ね達成できた(50%以上75%未満)、 C＝やや不十分だった(25%以上50%未満)、 D＝不十分だった(25%未満)。

第4次いしかわハートフルプラン

第2部 市川市障害者計画 > 第2章 具体的な施策 > 第7節 地域の理解・支援の促進 ～地域で支え合う～ > 第3項 ネットワーク形成

<重点事業>

事業名	基幹相談支援センターによるネットワーク構築		担当課	福祉部 障がい者支援課	ページ	107
事業概要	地域の関係機関との連携を強化することを目的に、基幹相談支援センター職員が関連会議等へ参加します。					
指標等	基幹相談支援センター職員による関係会議への出席種類数・出席回数					
年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
目標	36種類・175回		36種類・175回		36種類・175回	
実績	37種類・103回		43種類・134回		40種類・90回	
評価(＊)	B		A		B	
評価の理由	評価の基準どおりBとした。		評価の基準どおりAとした。		評価の基準どおりBとした。	
実績の概要	普段から出席している会議には引き続き出席したものの、コロナ禍の影響で回数は減となった。		コロナ禍の影響が減り、昨年度より増加した。		依頼があった会議や実施する必要がある会議には引き続き出席しているが、令和5年度は回数がやや少なかった。	
今後の課題と対応	会議はオンライン開催よりも対面形式の方が効果が高く、顔の見える関係をつくることもできることから、安易にオンライン開催とはならないものもある。コロナ禍当初に比べれば対面形式の会議も可能になってきていることから、引き続き、必要な会議には出席していく。		昨年度までに比べ、概ね必要な会議には出席できている。引き続き、必要な会議には出席していく。		引き続き、必要な会議には出席し、地域の関係機関との連携を図っていく。	

＊評価の目安 … A＝十分達成できた(75%以上)、 B＝概ね達成できた(50%以上75%未満)、 C＝やや不十分だった(25%以上50%未満)、 D＝不十分だった(25%未満)。